ボランティア活動の促進について

1 趣旨・背景

- 価値観の多様化に伴い社会課題が複雑化、多様化する中、行政による画一的なサービスだけでは市民ニーズへの対応が困難となっており、地域の実情に合ったまちづくりを進めるために、市民の自発的・主体的な社会貢献活動の重要性がさらに増している。
- 町内自治会等の地域団体では会員の減少や役員の高齢化による担い手不足が課題となっており、将来的に活動が継続できなくなることが懸念される。
- 地域活動・ボランティアに関心があっても実際には参加していない市民が一定数存在**し、こうした市民にボランティア活動に参加してもらうことが課題。
- 地域活動の担い手を増やすため、市民が地域活動へ参加するきっかけとなり うるボランティア活動への参加を促進していきたい。
- ※参考:生涯学習センター「地域活動・ボランティア活動に関する意識調査」報告書 (令和2年度)

地域活動・ボランティア活動に「参加したい」「機会があれば参	59. 5%
加したい」	
当該年度中に地域活動・ボランティア活動に「参加した」	20.3%

2 ご意見をいただきたいこと

- ボランティア活動未経験者の参加促進に効果的な取組みや配慮すべき点
- ボランティア活動経験者が継続して活動に取組むために必要な取組みや 配慮すべき点
- 地域活動を継続的に実施していくにあたり、担い手としてボランティアを活かしていくため、例えば有償ボランティアの活用など、必要な取組みや配慮すべき点
- 3 市の取組み(現状) ※R3年度実績は、注記がない限り令和4年2月末現在 (1)ボランティア情報及び活動場所等の提供
 - ア 千葉市民活動支援センターの運営(指定管理者による運営)

市民公益活動の促進を図るため、ボランティアやNPOの活動に必要な情報や活動場所の提供、活動に関する相談対応などを行う施設。

(主な取組み)

- ・ボランティア募集情報の掲出(R3年度実績 442件)
- ・ボランティア受入団体と参加希望者のマッチングイベント(R2、3年度は中止)
- マッチングカタログの作成(R3年度実施)

イ ボランティア情報掲示板「ちばぼら」の運営

ボランティア参加希望者と募集者をつなげるため、市が保有するボランティア募集情報やボランティア団体の情報をまとめた掲示板サイト。

• 掲載情報数

ボランティア募集情報

3 3 件 (R 3 年度実績)

ボランティアを募集する団体情報 434件(R3年度実績)

・アクセス数 18,095件(R3年度実績)

ウ チーム千葉ボランティアネットワークの運用

詳細は別紙をご覧ください。

(2) ボランティア活動の後押し及び意欲・能力の向上

ア ボランティア活動補償制度(ボランティア保険)の運用

市民が安心してボランティア活動に取り組めるよう、活動中の「損害賠償責任事故」と「傷害事故」を補償する制度。

	R3	R2	R 元	H30
補償件数	5件	5件	12件	13件

イ ちばシティポイント事業

市民公益活動に関する講座や活動の参加者に対して、専用のスマホ端末や QR コードを用いて地域ポイントを付与することで、活動への参加促進や活動を継続するモチベーションの向上を図る事業。

- 事業参加者数 14,756人*(R4年2月末までの累計)
 - ※市民公益活動、健康維持・増進活動、市の推進する施策等の合計参加者数
- 対象事業数 92事業

(R3年度実績。うち、市民公益活動関係は62事業)

- ウ その他本市におけるボランティア養成講座等(R2 年度市民自治推進の実施 状況より抜粋)
 - ・ちばし地域づくり大学校(高齢福祉課)
 - ・点訳ボランティア養成講座(障害者自立支援課)
 - ・精神保健福祉ボランティア講座(こころの健康センター)
 - ・動物公園ボランティア育成事業(動物公園)
 - ・地域おはなしボランティアスキルアップ研修(中央図書館情報資料課)

「チーム千葉ボランティアネットワーク」について

1 概要

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、市民がボランティアとして活躍できるよう支援するための基盤として平成 29 年に設置された。 当初は主にスポーツ・イベント分野でのボランティア体制としてスタートしたが、 現在は様々な分野のボランティア活動も対象としている。

市民局への引継ぎ後は、登録メンバーが経験を生かして引き続き活動するための受け皿として機能するほか、ちばぼらの機能を追加し、福祉や環境などの幅広い分野の活動情報を掲載していく予定。

2 現在の機能・状況

(1)機能

- ①ボランティア・イベント情報の発信
 - ・メンバーへのボランティア情報の提供、チャンネルオーナーからのイベン ト情報発信
- ②ボランティアの育成
 - ・メンバー向け研修の実施(ボランティア活動に役立つ救命救急研修など)
 - ・研修や講座情報を WEB へ掲載
- ③イベント主催者の支援
 - ・システムにより、経費をかけず容易にボランティア募集が可能
 - ・ボランティア応募者の情報をデータで管理できるため、労力の削減に貢献

(2) 状況等

- ・登録メンバー数:1,974人(令和4年2月末現在)
- ・情報提供者数:49機関(千葉市関係課、ボランティア関係団体等)
- ・運 営 形 熊:発足当初より民間事業者へ業務委託

3 今後の展望(予定)

- ニーズにあったボランティア情報の発信
- ・ボランティア活動情報の分野の拡大
- ・ボランティア募集元等の開拓
- ・登録者の意識向上(ボランティア活動への積極的な参加促進)